

STAGE+を楽しむ(17)(HP 収載)
—ヒラリー・ハーンのバッハ—

1. 始めに

前報(16)に引き続き、STAGE+の試聴を実施します。

2. 試聴音源

前報(4)では、ヒラリー・ハーンのバッハについて STAGE+と Spotify の再生を比較しました。その後、再生経路に NRF-005T の適用などを加えており、手元にあったヒラリー・ハーンのバッハのヴァイオリン協奏曲集のアナログ盤とも比較することにしました。この盤については、[ディスコグラフィ\(2019No.119\)](#)で報告しています。

ドイツグラモフォン 4835219

【曲目】

J.S.バッハ:

1. ヴァイオリン協奏曲 第2番 ホ長調 BWV1042
2. 2つのヴァイオリンのための協奏曲 ニ短調 BWV1043
3. ヴァイオリン協奏曲 第1番 イ短調 BWV1041
4. オーボエとヴァイオリンのための協奏曲 ハ短調 BWV1060

【演奏】

ヒラリー・ハーン(ヴァイオリン)

マーガレット・バーチャー(第2ヴァイオリン)(2)

アラン・ヴォーゲル(オーボエ)(4)

ジェフリー・カヘイン指揮ロサンゼルス室内管弦楽団

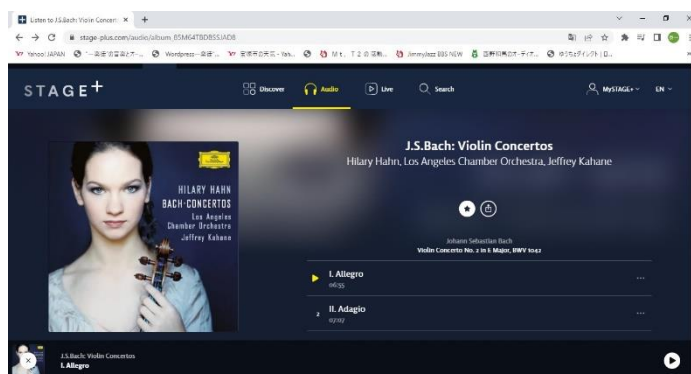


STAGE+の試聴音源は、再度下記を選定しました。

バッハ ヴァイオリン協奏曲 2 番

ヒラリー・ハーン (ヴァイオリン)

ジェフリー・カーン指揮ロスアンジェルス室内オーケストラ



さらに Spotify でも同じ曲を選びました。



3. 試聴の経過

STAGE+と Spotify は、ともに LAN ケーブルや USB ケーブルに NRF-005T の処理を行っています。また、300B アンプやスピーカーの接続にも NRF-005T の処理を行っています。今回は、そういった処理を踏まえて、アナログと配信の比較をおこなうわけです。

アナログ盤の再生は、LINN LP-12 のシステムで行いました。

STAGE+の再生は、PC 経由で行いました。

Spotify の再生は、PC 経由、Sonica DAC と fidata HFAS1-S10 の Spotify Connect の 3 ルートにより行いました。

ドイツグラモフォンのアナログ盤の再生の音質にもっとも近いのは、ドイツグラモフォンの配信サイト STAGE+の再生でした。元はデジタルマスターなので、アナログの方もデジタルに近い音質のようです。

Spotify の再生の PC 経由、Sonica DAC と fidata HFAS1-S10 の Spotify Connect の 3 ルートは基本的には似通った音質ですが、敢えて差をつけると、STAGE+にもっとも近い音質は STAGE+と同じ PC 経由の再生でした。PC 経由は Sonica DAC を通過しますので、Sonica DAC の Spotify Connect と同じく DAC は Sonica DAC ですが、すこし音質に違いがでてきます。fidata HFAS1-S10 の Spotify Connect は、USB 経由で DAC の Brooklyn DAC+に送り出され、上記とはちがったストレートな音がします。

以上のように同じマスターからの音源を比較できることに興味がありましたが、Spotify の 3 ルートとも以前に比べて、仮想アースや NRF-005T の適用によりグレードがあがっていることは確かです。

4. まとめ

アナログ再生と STAGE+の再生および Spotify の 3 ルートの比較を行いました。STAGE+の再生がもっともアナログ再生に近い音がしました。

以上